



毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です
～子どもの読書活動を推進しましょう～

「子ども読書週間」が始まります！

(4月23日～5月12日)

標語 いっしょによもう、いっぱいよもう



2021 子どもの読書週間のポスター

これは第63回「こどもの読書週間」の標語です。

「子どもたちにもっと本を！」との願いから、1959年（昭和34年）に始まった「こども読書週間」。第1回は、日本書籍出版協会児童書部会が中心となって4月27日から5月10日まで開催しました。この年はポスターではなくしおりを作成し、東京都内の書店やデパートで配布したそうです。その後翌1960年の第2回より、読書推進運動協議会が主催団体となり、名称を「こどもの読書週間」とし、2000年の「子ども読書年」を機に、現在の4月23日～5月12日の約3週間に期間を延長しました。

福岡市では、毎月23日を「福岡市子どもと本の日」としています。平成13年12月に公布された「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、4月23日が「子ども読書の日」と定められたことに基づいています。

また、国が4月23日を「子ども読書の日」としたのは、イギリスの文豪シェイクスピアとスペインの文豪セルバンテスの命日である日をユネスコが「世界図書・著作権デー」と宣言したことなどにちなんだものだと言われています。

さらに、4月30日は図書館記念日です。昭和25年4月30日に、図書館は無料のサービスである、という当時としては画期的な理念の「図書館法」が公布されたことを記念して設けられました。

学校現場では、新型コロナウイルス感染症の対策もあると思いますが、友だち、家族、先生と*いっしょに読む*ことで、読書の楽しさをより感じ、それが*いっぱい読む*ことにつながればと思います。

新1年生へのおすすめの本リスト」を配布しました

教育委員会では、小学校・中学校に入学する子どもたちを対象に、「学校の先生たちが選んだおすすめ本リスト」を作成し、本年度入学した子どもたちに配布しています。

このおすすめ本は小学校や中学校の各教科の研究委員会や研究会に依頼し、推薦していただきました。今年度で9回目になりますが、学校図書館の特設展示コーナーでの紹介や新規購入本の参考にご活用ください。また、各家庭での本選びのときの参考にもしていただきたいと思います。

あなたへのおすすめのほんをしょうかいします!

ここに しょうかいしているのは しょうがっこうの せんせいたちが えらんだ おすすめの ほんです。 おうちのひとや おともだちと たのしくほんを よみましょう!

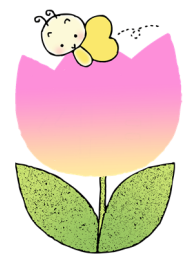
<p>こくご をえらんだあなたには…</p> <p>「みんなが おしえてくれました」 五味 太郎(作) 船本 肇(監)</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>	<p>さんすう をえらんだあなたには…</p> <p>「さんすうちゅうじん あらわる!」 かわはた ひろと(作) 藤田 亜生(監) 講談社</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>
<p>おんがく をえらんだあなたには…</p> <p>「つきよのおんがくかい!」 山下 洋輔(文) 橋本 沙弥郎(監) 福音館書店</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>	<p>ずがうさぐ をえらんだあなたには…</p> <p>「あおくんときいろちゃん」 レオ・レオーニ(作) 藤田 亜生(監) 至光社</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>
<p>かてい をえらんだあなたには…</p> <p>「おにぎりをつくる」 高山 なほみ(文) 長野 隆一(写真) プロダクション</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>	<p>たいいく をえらんだあなたには…</p> <p>「11びきのねこ マラソン大会」 馬場 のぼる(著) こくま社</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>
<p>せいかつ (しゃがい) をえらんだあなたには…</p> <p>「はかぬげたらどうするの?」 ゼリニー・ヒューズ(文) ブライアン・カラス(監) こだま ともち(訳) 石川 雅(監) フレーベル館</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>	<p>せいかつ (りか) をえらんだあなたには…</p> <p>「昆虫とあそぼう!」 とだ こうしろう(作・絵) 戸田デザイン研究室</p> <p>よんだSDGチェックをいれよう</p>

中学校の先生たちが選んだ！ あなたへのおすすめの本を紹介しします!

<p>国語 が好きなあなたに… 「クロニクル 千古の贈! オオカミ族の少年」 ミシエル・ペイヴァー(作) さくま 幸みこ(訳) 酒井 義子(監) 講談社</p>	<p>社会 が好きなあなたに… 「子どもSDGs」 秋山 宏次郎(監修) バウワ(監) カンゼン</p>
<p>数学 が好きなあなたに… 「思考の整理学」 外山 達也(著) 筑摩書房(ちくま文庫)</p>	<p>理科 が好きなあなたに… 「[ロウソクの科学]が教えてくれること」 尾崎 好美(監訳) 白川 英樹(監訳) SBクリエイティブ(サイエンスアベニュー)</p>
<p>音楽 が好きなあなたに… 「羊と鋼の森」 宮下 奈都(著) 文庫春秋社(文庫文庫)</p>	<p>美術 が好きなあなたに… 「ミケランジェロとコーヒータム」 ジェイムズ・ケール(著) 木本 龍利子(訳) 三才社</p>
<p>保健体育 が好きなあなたに… 「不可能を可能にする大谷翔平 120の思考」 大谷 翔平(著) ぴあ</p>	<p>技術 が好きなあなたに… 「コンピューターってどんなしくみ?」 村井 義一(監修) 藤川 雅(監修) 講談社</p>
<p>家庭 が好きなあなたに… 「せいかつ(りか)のふしぎなぜ? どうして?」 藤澤 真一(監修) 高橋書店</p>	<p>英語 が好きなあなたに… 「Frog and Toad Together」 アーノルド・ロベール(著) ハーパー・コリンズ社</p>

この他にもおすすめの本は、福岡市教育委員会のホームページで見ることができます。 [福岡市教育委員会](#)

好きな教科、興味のある教科、苦手な教科・・・どんな角度からでも手に取って読んでほしい本ばかりです。公共図書館でも借りることができます。



本の帯を使った4月の掲示・展示

「ヘンゼルとグレーテル」のお菓子の家、「3びきの子ブタ」のレンガの家、わらの家、木の家を作りました。段ボールを土台に使い、本の帯や身近にある物で作っています。図書委員会の子たちと楽しく作れそうですね。



お菓子の家

団体貸出に登録されると、お菓子の家など貸出することができます。ほかにも、さまざまなグッズがあります。お話と一緒に使うと、楽しくなりそうですね。



レンガの家



わらの家



木の家



暖炉



5月生まれの文学者



西 加奈子(にし かなこ)と「あおい」

1977年5月7日 イラン テヘラン生まれ

父の仕事の関係からテヘランで生まれた西氏は、2歳の時イラン革命が起きたため帰国し、大阪で過ごしました。その後、小学1年から5年生まではエジプトのカイロで日本人学校に通い、帰国してからは、大阪の大規模な小学校に通いました。

高校2年の時、装丁にひかれて買って読んだ「青い眼がほしい」という本から、「言葉ってこんな力があるのだ。」と、今までで一番すごい衝撃を受けたそうです。

25歳ぐらいの時に小説が書きたくなり、最初は短編で、1月から12月まで月ごとの話を書きました。その時に書いた12月の話は、後に出版する「さくら」の元になりました。

「あおい」を一月ほどで書きあげると、どうしてもこれを出版して作家になろうと思い東京に引っ越しました。小学館の担当者を紹介してもらうと、すぐ、出版することが決まり、2004年「あおい」で作家デビュー、翌年「さくら」が大ヒットしました。

作品は、「サラバ!」(直木賞)、「ふくわらい」、絵本では「きいろいゾウ」「きみはうみ」などがあります。



三木 卓(みき たく)と「ふたりはともだち」

1935年5月13日 東京都淀橋区(現在の新宿の西部)生まれ

三木氏は、2歳の時に南満洲鉄道に就職した父について満州にわたり、帰国してからは母子家庭で生活が大変な中、早稲田大学第一文学部露文科に入学しました。その後は詩作活動に励み同大学院にも進学しましたが、1960年大学院を中退しました。

河出書房新社に就職後、ロシア文学の翻訳をはじめましたが、1968年に退職し、童話創作と童話の翻訳に専念しました。その後、小説も書き始め、1973年「鶉」(ひわ)で芥川賞を受賞し作家としてスタートしました。

「ふたりはともだち」(アーノルド・ロベール作)は、絵本を翻訳した初めての作品です。翻訳を依頼され初めて原書を読んだときは、にこにこしながら読み、一か月ほどで翻訳しました。その時は、ここまでロングセラーになるとは思わなかったそうです。

作品は、「^{こぼなししゅう}小嘯集」(芸術選奨文部大臣賞)、児童文学「ぽたぽた」(野間児童文芸賞)など多数あります。三木氏は、紫綬褒章や日本芸術院恩賜賞を受賞し、2011年春の叙勲で旭日中綬章を授与されました。

(あとがき) 新しい年度になりました。コロナ禍の中のスタートですが、新しい学年、学級で子どもたちはわくわくどきどきしていることでしょう。本年度も「子どもと本の日通信」では、学校図書館の運営・活用に役立つ情報の提供を中心として、子どもたちの読書活動の推進を図っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。また、このおたよりを学校司書、司書教諭の先生にもぜひ読んでいただけたらと思います。

(足立)



図書館員のひみつの本棚 180回

今月はチェコ共和国の国民的な人気者がでてくる物語をご紹介します。

『ありのフェルダ』

オンドジェイ・セコラ／さく・え 福音館書店 2008年 ¥1400(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★★★★ 小中学年★★★☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校生☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

なんでも屋を始めたありのフェルダは、その明るい性格と素晴らしいアイデアで、昆虫たちの依頼を次々となし、みんなに喜ばれます。

しかしある日、フェルダは想いを寄せているてんとう虫の女の子ベルシカに誤解され、ベルシカの訴えで裁判にかけられることになってしまいます！

テンポよくすすむ奇想天外なストーリーと、魅力的なキャラクターたちに、驚きと笑いがとまらない物語です。語りかけるような文体とカラーの挿絵も子どもたちを楽しませてくれます。

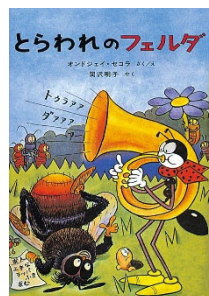
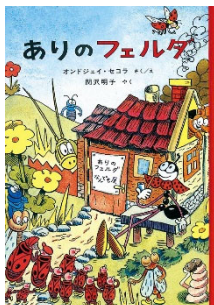
<子どもに手渡す時のポイント>

120ページ以上と、対象年齢の子どもには少し長い物語ですが、新聞の子ども欄に連載されていたこともあり、各章の最後は次の章を読みたくなる展開で終わっているのです。最初は1章ずつ大人が読んであげると「続きを読みたい！」という気持ちが子どもの中に生まれると思います。

続刊で『とらわれのフェルダ』(2011年¥1400)『ありづかのフェルダ』(2017年¥1600)と出版されているので、気に入った子どもには、ぜひこちらも手渡してみてください。

2年生の国語の教科書でも紹介されています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801